

令和6年度秋期 エンベデッドシステムスペシャリスト試験合格発表 分析コメント

(株) アイテック IT人材教育研究部 2024,12,26

10月13日（日）に行われた令和6年度秋期の情報処理技術者試験について、応用情報技術者ほか高度系5試験の合格発表がありました。IPAから発表された得点分布など統計データの分析結果をもとにして、応用情報技術者試験の分析コメントをお知らせします。

■エンベデッドシステムスペシャリスト試験（ES）

〔令和6年度秋期 エンベデッドシステムスペシャリスト試験 統計情報〕

応募者	1,949 人
受験者	1,365 人
合格者	231 人
合格率	16.9 %

令和6年度秋期実施のエンベデッドシステムスペシャリスト試験の合格率は16.9%で、前回の16.6%とほぼ同じでした。前回から午後Ⅰ試験の出題数が2問（従来3問）で解答数が1問（従来2問）に減り、午後Ⅱ試験は記述式から論述式に変わる大きな変更がありました。論述式試験に変わって2回目の試験ですが、対策のしづらい問題と感じた人が多かったと思われます。

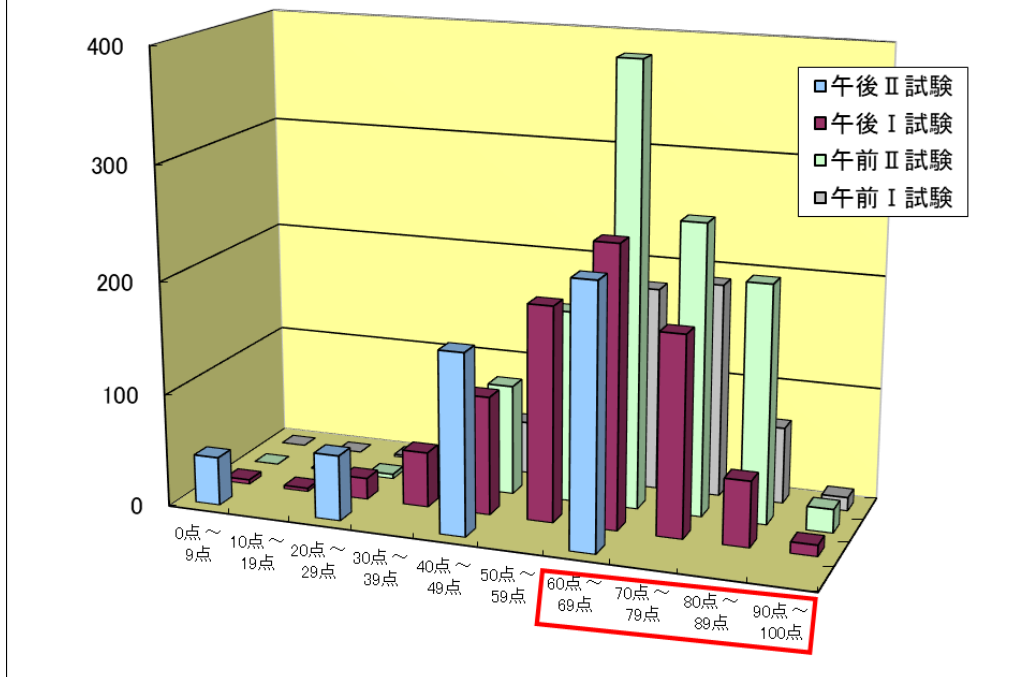
次に発表された得点分布の分析とグラフを示します。

〔令和6年度秋期 エンベデッドシステムスペシャリスト試験 スコア分布〕

得点	午前Ⅰ試験	午前Ⅱ試験	午後Ⅰ試験	午後Ⅱ試験	合格者
0点～9点	0	0	4	D 43	
10点～19点	0	1	3		
20点～29点	2	4	19	C 58	
30点～39点	8	12	49		
40点～49点	47	98	105	B 160	
50点～59点	106	170	190		
60点～69点	181	390	248	A 231	
70点～79点	190	257	177		
80点～89点	68	210	58		
90点～100点	12	21	10		
計	614	1,163	863	492	231
対前試験比率		189.4%	74.2%	57.0%	47.0%
午前Ⅰ免除者概算	751	55.0%			

合格者数	231	採点者数の割合	合格者数との差
午前Ⅰ 60点以上合計	451	73.5%	220
午前Ⅱ 60点以上合計	878	75.5%	647
午後Ⅰ 60点以上合計	493	57.1%	262
午後Ⅱ-A 評価	231	47.0%	0

令和6年度 エンベデッドシステムスペシャリスト試験 得点分布



午前Ⅰ試験免除の人も増えてきましたが、得点分布を分析してみると、今回午前Ⅰ試験の免除者は概算で751人（55.0%）おり、受験者の6割近くが午前Ⅱからの受験となっています。この午前Ⅰ試験で基準点60点以上取ることができた人は451人で受験者の73.5%に当たり、前回の52.2%よりかなり上がりました。

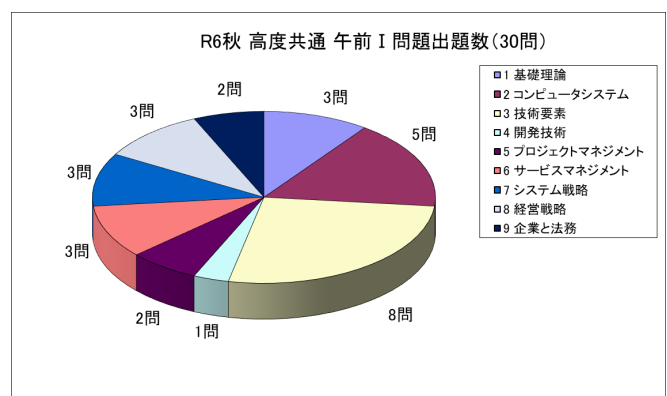
午前Ⅱ試験で基準点以上の方は878人（受験者の75.5%）で前回の78.7%から少し減少しています。午後Ⅰで基準点（60点）以上取れた人は57.1%で、前回の63.1%から少し減少しています。また、論述式試験に変わった午後Ⅱで合格点のA評価だった人は47.0%で、前回の44.3%から少し増加していますが人数も少ないので大きな差はなかったといえます。

■ 令和6年度秋期 エンベデッドシステムスペシャリスト試験の出題内容について

〔午前Ⅰ試験（高度試験の共通知識問題）〕 30問出題／30問解答，50分

高度試験で共通して出される午前Ⅰ試験の30問は、従来どおり、すべて応用情報技術者試験（AP）の午前試験80問の中から選ばれていて、テクノロジー系17問（57%）、マネジメント系5問（17%）、ストラテジ系8問（26%）という出題比率です。

午前Ⅰ試験には免除制度がありますが、高度試験の約4～5割の人が午前Ⅰ試験から受験しています。今回の午前Ⅰ試験で60点以上取れた人は73.5%もいましたが、これまで60点以上の得点で午前Ⅱ試験の採点に進む人は5～6割で、出題範囲が広いので試験問題を難しく感じる人がかなり多いといえます。難しい問題が多いときには4割程度の人しか通過できないときもあったので、最初の午前Ⅰ試験でつまづかないように、早めに試験対策の学習を始め、確実に知識をつけていく必要があ



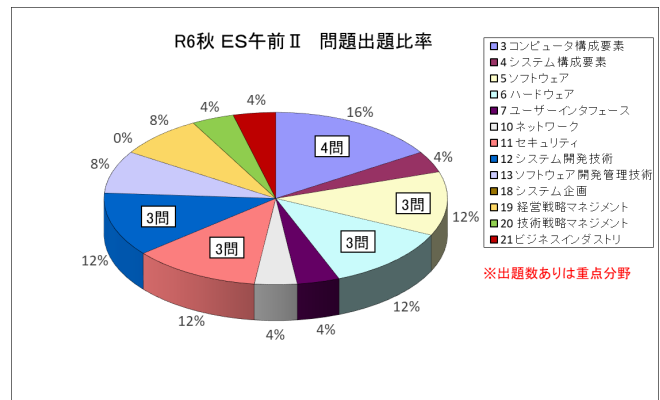
ります。

- ・今回の午前Ⅰ試験は、6割以上が過去問題でしたが、オーソドックスな問題が多く、前回より解きやすかったといえます。
- ・重点的に出題されるセキュリティ分野の出題数は前回と同じ4問で、最も多い出題数です。
- ・新傾向問題は3問で前回の4問と大きく変わっていません。

〔午前Ⅱ試験（専門知識問題）〕 25問出題／25問解答，40分

今回の午前Ⅱ試験から出題範囲にテクノロジー分野のユーザーインターフェースが加わりました。前回試験で、ストラテジ分野のシステム企画、経営戦略マネジメント、技術戦略マネジメントが加わっているため、かなり出題分野が増えました。

追加された分野で出題された問題は「有効さ・効率・利用者の満足度を評価する手法」という内容でした。過去問題は約7割ありましたが、エンベデッドシステムスペシャリスト試験の過去問は8問ありました（前回6問）。組込み特有のハードウェア、ソフトウェア、システム開発関連の問題は7問出題され（前回5問）、新傾向問題は4問あり少し難しい内容でした。



〔午後Ⅰ試験〕 2問出題／1問解答，90分

前回の試験から出題数が2問、解答数が1問と少なくなりました。試験時間はそれ以前の2問解答時と同じ90分なので、解答の負荷が減ると期待されましたが、出題された問題分量が10ページ程度で設問の量も多く、問題を理解して解答を考える時間としては足りなかった人が多かったと思われます。今回の試験問題では少し問題分量が減ったとはいえ、設問の量が依然として多いと感じられました。

出題された内容は、問1がハードウェア、問2がソフトウェアを主体とするもので、前回と同じでした。

〔午後Ⅱ試験〕 3問出題／1問解答，120分

前回から論述式の試験に変わり、出題数は3問になりました。問題は、「組込みシステム製品について」という前提で、「企画における生産形態の多様性」、「設計における実現性の検証・試作などの事前検証」、「保守業務を支援する機能・構造の開発」という内容でした。

内容的にバランスよく出題されているといえますが、組込み製品の開発経験がないと記述が難しいこと、論述式試験に慣れていない受験者がまだ多かったと考えられることなどから、解答しづらい問題だったといえます。

